

亀崎中通信



令和4年10月11日
広島市立亀崎中学校

令和4年度全国学力・学習状況調査についての結果を報告いたします。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の実施日 令和4年4月19日（火）

3 調査実施学校数（公立学校）等

学年	区分	調査実施校数（校）			調査実施者数（人）		
		国	広島県	広島市	国	広島県	広島市
小学校第6学年		18,671	449	*140	965,761	22,755	10,151
中学校第3学年		9,348	239	64	892,585	20,213	8,794

4 調査内容

(1) 教科に関する調査（小学校第6学年：国語・算数・理科 中学校第3学年：国語・数学・理科）

出題内容

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい「知識・技能」等
- 知識・技能等を実生活の様々な場面に「活用」する力や、様々な「課題解決」のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

出題方法

上記 a と b を一体的に問うこととし、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 各教科の平均正答率（各都道府県及び各指定都市の結果は整数で公表）

【中学校】

国語				数学				理科			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
69.0	69	69	60	51.4	50	51	41	49.3	49	49	40

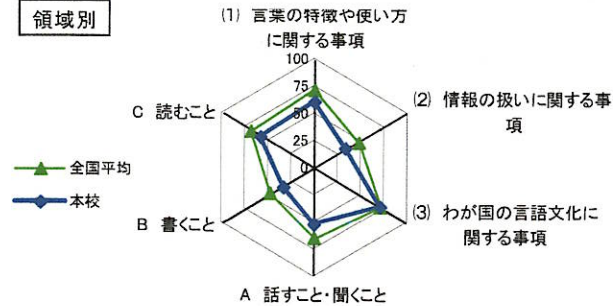
指導方法等の改善計画

<国語>

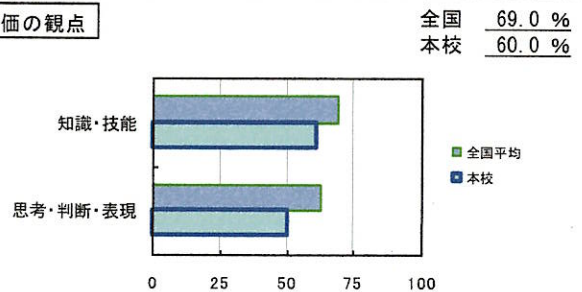
広島市立亀崎中学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

領域別



評価の観点



【令和4年度の分析】

○ 成果

- ・ 全国平均と比べて正答率が下回っている問題が多いが、言葉の特徴や使い方に関する事項や、我が国の言語文化に関する事項の問題などでは、全国平均との差が小さくなっている。基本的な語彙力や漢字の読み書きの力が少しずつ定着してきていることが成果である。

● 課題

- ・ 書く能力に関する問題については、全国平均を下回る正答率であった。特に、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題の正答率は33.3%に留まった。また、無解答率は19.4%だった。根拠を明確にして自分の意見を述べるのが課題である。

重点課題

- ◎ 1・三の問題の本校正答率は、36.9%である。また、2・三の問題の本校正答率は、33.3%であり、19.4%は無解答である。自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、根拠を明らかにしたりすることに課題がみられる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- 自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、根拠を明らかにしたりする力を伸ばすために、以下のような指導の工夫を図る。
- ①物語文の学習の際には、物語の主題や登場人物の考え方などについて、自分はどう考えるかなどをじっくり考えさせ、必要に応じて協議するなどして自分の考えを伝えたり深めたりする活動を取り入れる。
 - ②説明的な文章の学習の際には、筆者の主張と論理の展開に着目して読ませ、原因と結果、意見と根拠の結びつきについて丁寧に確認しながら内容を解釈させる。
 - ③表現するために必要な基礎的な語彙力や漢字の読み書きの力を伸ばすために、辞書を活用する活動や、新聞などの様々な文章に触れる機会を設ける。

次年度の目標値

書くことに関する平均正答率及び無解答率を全国平均同程度にする。

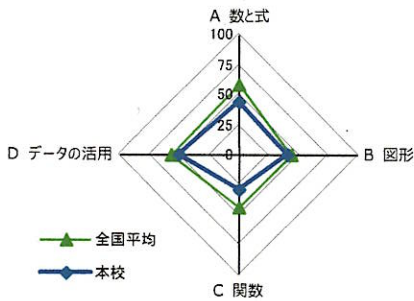
【正答率30%未満の生徒に対する具体的な手立て】

- ・ 作文指導や、心情を読み取る学習の際には、語彙力に自信のない生徒が参考にできるような語群を示すなどして選択肢を与え、自身で意味を理解し活用できるような配慮を行う。
- ・ 授業の初めに、漢字・慣用句・故事成語・ことわざ・文法などの復習が出来る簡単なプリントを実施し語彙力を増やすことで、文章などの内容理解に繋げる。

< 数学 >

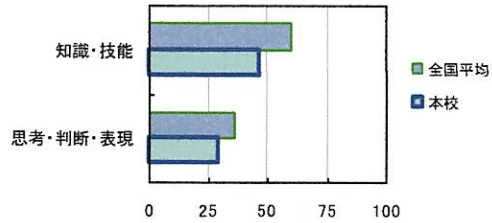
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

領域別



評価の観点

全国 51.4 %
本校 41.0 %



【令和4年度の分析】

○ 成果

- ・ 全国平均に対して、下回っている問題が多いが、ヒストグラムに関する問題の正答率が、全国平均より大きく上回っている。データの活用を具体的な場面に取り扱うことで理解が深まったのが成果である。

● 課題

- ・ 数と式に関する問題と関数に関する問題の正答率の全国平均との差が、昨年度より広がったことが課題として挙げられる。また、知識・技能に関する問題の正答率が、全国平均 57.7% に対して、47.1% と約 10% の差があった。

重点課題

- ◎ 1 の素因数分解を使う問題の正答率が 24.3% と全国平均の 52.2% より大きく下回っている。
- ◎ 4 の変化の割合に関する問題の正答率が 18.9% と全国平均の 37.9% より大きく下回っている。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

素因数分解や、変化の割合など基本的な用語の意味を理解させ、反復練習を繰り返す。また、学習が終わった単元の内容もスパイラル学習を行う事で、内容の定着を目指していく。

次年度の目標値

数と式に関する問題と関数に関する問題の全国平均との差を 5% 以内に縮める。
知識・技能に関する問題の全国平均との差を 5% 以内に縮める。

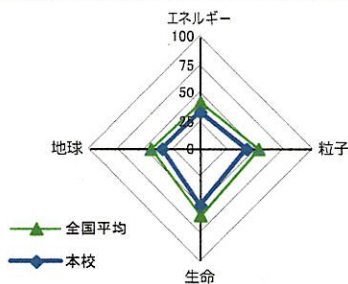
【正答率 30% 未満の生徒に対する具体的な手立て】

- ・ 式を計算したり、方程式を解いたりなど、数式を処理することから学習を進める。ドリル学習を行った後、小テストを行うことで、できた達成感を味わわせ、数学を解くことに対する意欲を上げさせる。
- ・ ドリル学習をする際や、小テストを行う前に、グループで確認する時間を設け、生徒同士で教え合う場面を作る。

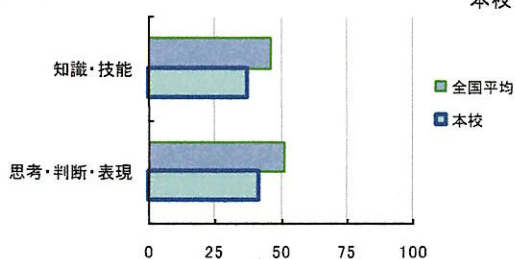
<理科>

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

領域別



評価の観点



全国 49.3 %
本校 40.0 %

【令和4年度の分析】

○ 成果

- 「理科の勉強は好きですか」「理科の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対する生徒の肯定的な解答の割合は全国平均と比べて高いと言う結果が得られた。この要因として、日々の授業の中で、学習内容に関する実験をできるだけ多く行うことで、生徒の学習に対する意欲が高まっていると考えられる。

● 課題

- 「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問に対する生徒の肯定的な解答は55%程度であった。この結果の要因として、授業の中で日常生活の中にある自然現象を理科の視点から考えさせる場面が少ないことが考えられる。今後は、学習内容に関する現象を自分の言葉で説明させるといった指導を取り入れる必要がある。

重点課題

◎問題番号1 (1)

日常生活の中で起こる自然の事物現象について、学習内容に関する知識及び技能を活用することに課題がある。(正答率 27.8%)

◎問題番号5 (1)

力の働きに関する知識および技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を作図する技能に課題がある。(正答率 8.3%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

今までの指導は日常生活における様々な事物現象を学習内容と合わせて理解する程度の指導であった。今後は、自然の事物現象と理科に関する知識を関連付けて理解・活用させるために、身近な現象を題材とした単元を貫く課題を設定し、学習後に課題を説明させるといった指導を取り入れる。

作図を行う際にも、何を示す作図かという意味を理解させる指導を取り入れる。

次年度の目標値

「エネルギー」を柱とする領域の正答率が32.4%であることから、この領域に関する問題の正答率を全国平均程度にする。

【正答率30%未満の生徒に対する具体的な手立て】

- 日常生活における様々な事物現象を、理科に関する知識と関連付けて理解させ、活用させるために、身近な現象を題材とした単元を貫く課題を設定し、学習後にその現象を説明させるといった指導を取り入れる。
- 実験の結果から言えることを考察する際に、実験の目的に立ち返り、「どのデータから何が言いたいのか」を整理して記述させるといった指導を取り入れる。また、整理して記述を行わせるためにも、ワークシートの見直しを行い、子どもの頭の中が整理され、目的に応じた考察がしやすくなるような工夫をしていく。

生活・学習の授業方法の改善計画

(生徒学習意識等調査：生徒質問紙調査、全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査)

(1) 生活・学習

	生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容
学習意識等調査	<ul style="list-style-type: none"> 「ものごとを解決するとき、予想する」「生活の中で学習した内容を使っている」等、思考や応用を必要とする活動に対する肯定的回答が県平均に比べ15ポイント以上低い。 「自分には良いところがある」に対する肯定的回答が、県平均に比べ約20ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在も取り組んではいるが、今後も予想したり、解決したりする活動を意識的に教科や学活等に組み込んでいく。 生徒が能動的に活動できる場面（行事や特別活動）で、「振り返りシート」などで生徒間・教師からの肯定的評価が感じられるような機会をつくる。
全国学力	<ul style="list-style-type: none"> 「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」 4時間以上 本校(37.8) 県(18.2) 「普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」 全くしない 本校(16.2) 県(5.6) 30分より少ない 本校(27.0) 県(9.9) 	<ul style="list-style-type: none"> テレビやゲームの時間については、家庭の協力を得ることも必要だと思われる。この結果を保護者と共有し、理解と協力を得ながら改善に向けて取り組んでいきたい。 学習については、各教科から出された宿題や課題についてはほとんどの生徒が取り組んでいる。しかし、自分の苦手な教科や単元などについて進んで学習しようとする姿勢はあまり見られない。生徒が自ら課題を見つけて取り組んでいけるよう指導していきたい。

(2) 教科

	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	『今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。』という質問に対して、2（書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた）を選んだ生徒の割合は、広島県平均の14.2%に対して本校は25.0%であった。	本校の生徒は、記述形式の問題に苦手意識をもっている。そのため、解答を書くことを途中で諦めてしまったり、全く解答しなかったりする生徒が多いという実態がある。目的に応じて文章を書いたり、様々な文章に触れて豊かな語彙力を身につけたりする機会を増やし、記述問題に対する苦手意識を克服させたい。
全国学力 数学	「数学の勉強は大切だと思いますか」という質問の、肯定的な生徒の解答が広島県平均の87.7%に対して、本校は70.2%であった。 「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問の、肯定的な生徒の解答が広島県平均の49.2%に対して、本校は29.7%であった。	「数学の勉強が好きですか」という質問の解答は広島県の平均より上回っているのに、数学の勉強の必要性を感じていない生徒が多い。なぜ、数学を学習するのかを伝えたり、数学が使われている具体的な場면을提示したりするなど、数学の必要性を感じさせたい。
全国学力 理科	「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問に対する生徒の肯定的な解答は55%程度であった。この結果が得られた要因として、授業の中で日常生活の中にある自然現象を理科の視点から考えさせる場面が少ないことが考えられる。	今後は、学習内容に関する現象を自分の言葉で説明させるといった学習課題を取り入れる必要がある。例えば、身近な現象を題材とした単元を貫く課題を設定し、学習の前後にその現象を説明させるといった学習課題を取り入れる。学習内容を活用させて現象について説明させることにより、課題として挙げた点が克服できるのではないかと考えられる。